

令和7年度

# 「運営に関する計画」

最終評価

日本橋小中一貫校  
大阪市立日本橋中学校  
大阪市立浪速小学校

令和8年3月

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校  
令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

## 1 学校運営の中期目標

### 現状と課題

- ・本校は、施設一体型小中一貫校として、平成29年度に開校した。開校当初から多くの課題に順応し解決解消を、教職員、保護者、地域と共に行い、学校運営の基盤を策定してきた。大阪市教育振興基本計画に従い、令和7年度末までの期間を更なる本校の成長期と位置づけ組織構造の見直しと更なる発展が求められている。
- ・児童生徒への意識調査結果から自己肯定感が全国平均と比較すると、かなり低い現状であるため、キャリア教育の充実、学力向上の推進などを進めることが求められている。
- ・ICT教育を積極的に発展させることや、カリキュラムマネジメントを展開するなど、教職員の資質向上、授業力向上を更に進める必要がある。
- ・開校以来、児童生徒への深い愛情と、本校教育活動へのご支援を戴いている地域の方々や、PTA活動をしてくださっている皆様と今以上に連携を重ね、本校の教育活動に取り組む必要がある。
- ・改正義務教育標準法（公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律）に基づく学級数の増加に伴い、教室配備や施設整備を計画的に行う。小中一貫校としての組織運営を強靱なものとし、業務効率の向上、教職員間の協働、働き方改革を進める。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

##### <安全・安心な教育環境の実現>

##### (小学校)

- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。

**76.2%** 前年度：小：70.2%

- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を92%以上にする。

**89.9%** 前年度：小：91.0%

##### (中学校)

- 年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。

**79.0%** 前年度：中：73.0%

- 年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を96%以上にする。

**92.0%** 前年度：中：88.6%

##### <豊かな心の育成>

##### 「特別支援教育の推進」

- 特別支援コーディネーターを1名以上配置し、生徒情報交換会（小中連携会）を毎月2回以上実施する。また中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を毎学期2回以上確認する。 **実施済み**

「校内美化」

○校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を毎年85%以上に保つ。小**93.0%**、中**90.0%**

令和5年度：小83.3%・中89.4%、令和6年度：小95.0%・中88.0%

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

<誰一人取り残さない学力の向上>

(小学校)

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上にする。 **35.9%** 前年度：34.2%

(中学校)

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を45%以上にする。 **34.0%** 前年度：38.0%

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を令和7年まで40%以上に保つ。 **43.1%**

令和5年度：64.4%、令和6年度：38.8%

<健やかな体の育成>

(小学校)

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和7年度までに62.6%以上にする。 **65.5%** 前年度：60.5%

(中学校)

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を令和7年度までに53.6%以上にする。 **48.0%** 前年度：54.0%

【学びを支える教育環境の充実】

<教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進>

○授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数を毎年向上させ、令和7年度に75%にする。1月末現在 小**23.2%**(30日間)、中**21.5%**(31日間)

前年度：13日間

<生涯学習の支援>

○年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童生徒の割合を、毎年増加させる。 **小74.0%、中63.0%**

令和5年度：小84.7%・中67.9%、令和6年度：小95.0%・中61.0%

<人材の確保・育成としなやかな組織づくり>

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を、90%以上に保つ。

2月末現在 **90.8%** 令和5年度：87.3%、令和6年度：89.4%

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

<安全・安心な教育環境の実現>

(小学校)

○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。

**76.2%** 前年度：70.2%

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を93.3%以上にする。

**89.9%** 前年度：91.0%

(中学校)

○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。

**79.0%** 前年度：73.0%

○年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。

**92.0%** 前年度：86.6%

<豊かな心の育成>

「特別支援教育の推進」

○特別支援コーディネーターを1名以上配置し、生徒情報交換会（小中連携会）を毎月1回実施する。中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を毎学期1回確認する。

**実施済み** 前年度：小：毎月1回、中：毎学期1回

「校内美化」

○校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を85%以上にする。

**小 93.0%、中 90.0%** 前年度：小 95.0%・中 88.0%

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

<誰一人取り残さない学力の向上>

(小学校)

○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上に保つ。

**35.9%** 前年度：34.2%

○算数科「数と計算」の領域での単元テストの平均を65パーセント以上に保つ。

**76.0%** **新設**

(中学校)

○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を45%以上にする。

**34.0%** 前年度：38.0%

○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を64.5%以上にする。

**43.1%** 令和6年度：38.8%

<健やかな体の育成>

(小学校)

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60.6%以上に保つ。

65.5% 前年度: 60.5%

(中学校)

○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を前年度以上にする。

48.0% 前年度: 54.0%

### 【学びを支える教育環境の充実】

<教育DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進>

○授業日において、児童生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

1月末現在 小23.2%(30日間)、中21.5%(31日間) 前年度: 13日間

<生涯学習の支援>

○年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童生徒の割合を、前年度より増加させる。

小74.0%、中63.0% 前年度: 小95.0%・中61.0%

<人材の確保・育成としなやかな組織づくり>

○年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を、90%以上にする。

2月末現在 90.8% 前年度: 89.4%

## 3 本年度の自己評価結果の総括

・年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合については、小学校で80.0%、中学校で79.0%、肯定的な「思う」「そう思う」については小学校で93.0%、中学校で95.0%と小中とも9割以上となっている。「服装や時間、学校の規則を守っていますか」に対しては、肯定的な「思う」「そう思う」については小学校で91.0%、中学校で92.0%と小中とも9割以上となっている。遅刻して登校する児童生徒が少なからずいることから、時間を守ることができていないと回答している児童生徒もいると考えられる。また、一貫校は全市募集であり校区外から通学する児童生徒は、小学校で30%、中学校で20%と多いことも一つの要因であると考えられる。

・清掃活動については、年2回の清掃強化月間を設けることにより、児童生徒の美化意識も高まり、「いっしょけんめい清掃活動をしていますか」とのアンケートに対して、肯定的な回答が小学校93.0%、中学校90.0%と高い。また、今年度より、小中合同での大清掃を実施することができた

・学習について、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問に対し、校内アンケートでは肯定的な回答の割合は、小学校80.0%、中学校80.0%と高く、小中ともに昨年度と同様の数値を維持できている。「積極的に授業に参加できている」、「授業はわかりやすい」のアンケートについては、小中ともに9割以上が肯定的な回答であり、主体的・対話的で深い学びにつなが

る授業を実施し、研究授業や公開授業においても校内で検討会を実施していることもこれらの数値に表れていると思われる。

・ICTの活用においては、今年度より家庭への持ち帰りを毎日実施することができた。また、小学校では授業開始前にデジタル計算ドリルを実施したり、グループで話し合った内容を学習者用端末で編集して発表したりと活用できる場面を広げ、端末活用率も徐々に上がってきている。今後も、教育委員会やICT教育支援員の支援も得ながら、ICT機器を活用することにより得られた新しい教育活動の利点も考慮し、次年度の活動を積極的に取り組む必要がある。

・働き方改革については、他校の取り組みも参考にしながら、有給休暇の取得しやすい環境や時間外勤務時間の短縮に向けて検討し取り組む必要がある。

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校  
令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 &lt;安全・安心な教育環境の実現&gt;</b> (小学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を85%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>76.2%</b> 前年度: <u>70.2%</u></p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を93.3%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>89.9%</b> 前年度: <u>91.0%</u></p> <p>(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を80%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>79.0%</b> 前年度: <u>73.0%</u></p> <p>○年度末の校内調査における「学校の規則を守っていますか」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を90%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>92.0%</b> 前年度: <u>86.6%</u></p> <p>&lt;豊かな心の育成&gt; 「特別支援教育の推進」</p> <p>○特別支援コーディネーターを1名以上配置し、生徒情報交換会(小中連携会)を毎月1回実施する。中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を毎学期1回確認する。 <b>実施済み</b> 前年度: <u>小: 毎月1回、中: 毎学期1回</u></p> <p>「校内美化」</p> <p>○校内美化の活動を通じて、年度末の校内調査で「いっしょけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を85%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>小 93.0%、中 90.0%</b> 前年度: <u>小 95.0%・中 88.0%</u></p>	<b>A</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導)</b> いじめ解消・暴力行為の減少において、「いじめについて考える日」を小中それぞれ年1回設定し、学校長の講話を実施する。また、集会等でもいじめや他者理解について話を行い、いじめ解消に向けた啓発活動を実施する。</p> <hr/> <p><b>指標 小 76.2%、中 79.0%</b> 学力経年・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童割合を85%以上にし、生徒割合を80%以上にする。 前年：小学校 70.2%・中学校 73.0%</p>	<b>B</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>学力経年・校内調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童割合は76.2%、生徒割合は79%であった。昨年度の数値と比較すると小学校・中学校ともに改善傾向にあるが、目標の数値にはわずかに及ばなかった。</p> <p>小学校、中学校ともに5月の「いじめ(いのち)について考える日」に校長による講話を実施した。また、学期に一度行ういじめアンケートにより、いじめの有無を把握し、適切な聞き取りと指導を行った。</p> <p>学年の指導では、「いのちの学習」や「障がい理解」、「性教育」、「国際理解」等の講話や授業をすることで、いじめがおこらないよう事前に対策を行った。</p> <p>毎週実施される全校・学年集会では、学年の教員からの講話により、いじめについて考える機会を設けた。また、長期休暇明けの個別相談シートを活用して事前に聞き取りをする等のいじめ対策を行った。</p> <p>登下校時には、小学校・中学校ともにスマートフォンを触らないこと、必要のないときに鞆の中から出さないことの指導を徹底して行った。</p>	
次年度への改善点	
<p>SNS 安全教室を実施し、校内だけでなく SNS 上での誹謗中傷や友人間でのトラブル防止の対策を行った。しかし、校内での指導では SNS の扱い方についての指導が頻繁に行われているため、SNS 及びスマートフォンの正しい使用方法について継続して指導する必要がある。特に、登下校中にスマートフォンを使用している児童・生徒が目立つので、巡視等を定期的に変更する必要がある。また、本校でも小学校・中学校ともに、いじめ動画の投稿・拡散について注視し、見守る必要がある。</p>	
<p><b>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導)</b> 規則遵守において、生活指導の方針にそって子どもたちへの説明を初期に実施する。毎月の集会指導等できまりの確認・啓発を実施する。マンパワー強化を目的に週4日配置の生活指導支援員と協力を得るように常に働きかけ、小中ともに生活目標を設定し、啓発活動を実施する。</p> <hr/> <p><b>指標 小 89.8%、中 92.0%</b> 小学校学力経年調査で「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を前年度以上にする。また、中学校では校内調査「学校の規則を守っていますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合を前年度以上にする。 前年：小学校 91.0%・中学校 88.6%</p>	<b>B</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

小学校学力経年調査で「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的な回答をする児童の割合は89.8%であった。また、中学校では校内調査「学校の規則を守っていますか。」に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は92%であった。

4月上旬に始業式や集会で生活指導の方針にそって、規則遵守について話をした。また、毎月の集会指導や全校朝会、2学期始業式や終業式の際に持ち物や校内ルールの確認や啓発を行った。

登下校指導や服装指導では、週4日配置の登校指導支援員と連携し、校区内巡視や生活指導を実施した。

10月と1月には、児童会と生徒会による合同あいさつ運動を実施した。あいさつ運動の期間は登校時間が早まる等一定の効果があった。

小学校・中学校ともに薬物乱用防止・非行防止教室を実施し、きまりを守ること、社会的モラルを遵守することを徹底して指導した。また、交通安全教室の出前授業により、校外での規則遵守についても指導し、校内に限らず、校区内での交通ルールやマナー、モラルについても継続して指導を行った。校務分掌部会では小学校・中学校のきまりを共有し、持ち物や校内ルールについて共通理解し、細かいルールのすり合わせを行った。持ち物、服装等のきまりを話し合い、次年度の生活指導のきまりに掲載する予定で文面を変更した。中学校では、標準服の移行期廃止に伴い、標準服の着こなし講座を実施し、生徒に標準服の正しい着方を指導した。また、問題行動や対応事案が発生すると、小学校・中学校の生活指導部で直ちに情報共有し、迅速な対応をすることができた。

次年度への改善点

看護当番の巡視を徹底して行い、廊下での歩行や、運動場での遊びについてその場で指導し、再度導線の確認・徹底をさせることで安全面にも配慮する。

児童・生徒ともに「時間を守る」重要性について指導を徹底する。登校時間やチャイム着席等を小学校・中学校でも指導する。

小学校・中学校で授業の始業時刻・終業時刻が違うので、移動教室の際はそれぞれ声かけや巡視をする必要がある。

**取組内容③【1 安全・安心な教育環境の実現】(生活指導)**

(特別支援教育の推進)

小中一貫校の特性を活かし、生徒情報交換会(小中連携会)を実施し、学年や職員会議を通して学校全体の共通理解を図る。また、中学校入学前の特別支援学級に在籍している児童の様子を確認する。

**指標 実施済み**

特別支援コーディネーターを小学校で2名、中学校で1名配置し、生徒情報交換会(小中連携会)を毎月1回実施する。また、中学校入学に備えて特別支援学級に在籍している児童の様子を毎学期1回確認する。

前年：小学校 毎月1回・中学校 毎学期1回

**B**

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

児童・生徒情報の交流を月に一度実施した。また、小学校・中学校の特別支援コーディネーター間で毎月生徒情報交換を行い、コーディネーターが小学校特別支援学級に在籍している児童の様子を定期的に確認した。また、特別支援担当教職員で密に話し合いを行い、定期的に情報共有を行った。8月には小・中特別支援学級の交流会を実施し、児童・生徒の情報を細部まで共有した。

次年度への改善点	
<p>小中連携会を毎月実施することができなかつたので、次年度は小中連携会の回数を増やし、さらに連携を深められるようにする。小学校・中学校の特別支援コーディネーター間の情報交換は、引き続き継続して密に行えるようにする。</p>	
<p><b>取組内容④【5 健やかな体の育成】(健康教育)</b>          児童生徒の美化意識を育むために、清掃強化週間を設定する。また、清掃用具や清掃活動の方法を整備する。</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p><b>指標 小 93.0%、中 90.0%</b>          校内調査で「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答を85%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>前年 小学校：95%・中学校：88%</b></p>	<b>A</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>小学校の環境・美化委員会、中学校の美化委員会が中心となり、6月と12月の年間2回清掃強化週間（キラリ週間）を実地し、校内美化に対する意識を高めることができた。</p> <p>年度末の校内調査では「いっしょうけんめい清掃活動をしていますか」の質問に対して肯定的な回答が、小学校93%、中学校90%であり、指標を上回った。</p> <p>また、2学期は小中合同の大清掃を実施した。その際、中学生はリーダーシップを発揮して清掃活動に取り組むことができた。</p>	
次年度への改善点	
<p>来年度も引き続き児童・生徒の校内美化への高い意識が維持できるように、清掃強化週間（キラリ週間）や委員会活動を通じてはたらきかけを行う。また小中合同の大清掃を継続して行う。</p>	

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校  
令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p>&lt;誰一人取り残さない学力の向上&gt;</p> <p>(小学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を35%以上に保つ。</p> <p style="text-align: right;"><b>35.9%</b> 前年度: <u>34.2%</u></p> <p>○算数科「数と計算」の領域での単元テストの平均を65パーセント以上に保つ。</p> <p style="text-align: right;"><b>76.0%</b> <u>新設</u></p> <p>(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する生徒の割合を45%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>34.0%</b> 前年度: <u>38.0%</u></p> <p>○大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を64.5%以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>43.1%</b> 令和6年度: <u>38.8%</u></p> <p>&lt;健やかな体の育成&gt;</p> <p>(小学校)</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を60.6%以上に保つ。</p> <p style="text-align: right;"><b>65.5%</b> 前年度: <u>60.5%</u></p> <p>(中学校)</p> <p>○年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童生徒の割合を前年度以上にする。</p> <p style="text-align: right;"><b>48.0%</b> 前年度: <u>54.0%</u></p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】(学力向上「小学校」)</b> 「個別最適な学びの充実」をテーマとして設定し、知識・技能の定着をめざす。</p> <hr/> <p><b>指標 81.0%</b> 年度末の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」「ややあてはまる」と回答する児童の割合を80%以上に保つ。 前年：小学校 34.2%</p>	<b>B</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>研究を進めてきた算数科だけでなく、どの授業時間でもグループや学級全体での話し合う時間やその機会を確保し、自分の考えを友だちにわかりやすく伝える指導を続けてきた結果、発達段階に沿って「話し合いにより考えを深めるといふこと」ができるようになってきた。自分の考えをもちながら発表することについて消極的な児童もまだいるが、自分の考えに自信をもち、声に出して伝えられる児童が増えてきたことにより学校アンケートでは、自分の考えを深めたり、広げたりすることについて「あてはまる」が43パーセント、「ややあてはまる」が37パーセントで肯定的な回答が80パーセントに達した。</p>	
次年度への改善点	
<p>話し合いの機会や時間の確保を継続する。聞く力を鍛え、友達の考えと自分の考えとの共通点や相違点を見つけさせ、知識をさらに深める指導に努める。</p>	
<p><b>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】(学力向上「中学校」)</b> 「言語能力の育成を通して知識の基盤を作る」をテーマとして設定し、知識・技能の定着をめざす。</p> <hr/> <p><b>指標 80.0%</b> 年度末の校内調査における「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的な「当てはまる」「ややあてはまる」と回答する生徒の割合を75%以上に保つ。 前年：中学校 38%</p>	<b>A</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>生徒アンケートにおいて、肯定的に「当てはまる」「ややあてはまる」と回答する生徒の割合は80%と目標は達成できていたが、最も肯定的な回答は昨年度より4ポイント下がり、34%であった。</p>	
次年度への改善点	
<p>自分の考え方を深めたり、広げたりする活動を行うためには、知識の基盤が築かれていなければならない。また、自分の考えを表現したり、共有したりするツールとして「学習者用端末」を活用することや「学習言語」を意識した授業を、どの教員も行えるように研修を行っていく。</p>	
<p><b>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】(学力向上「小学校」)</b> デジタルドリルやプリントなどを活用した反復練習を行い、算数科に関する知識・技能の定着を図る。</p> <hr/> <p><b>指標 76.0%</b> 算数科「数と計算」の領域での単元テストの平均を65パーセント以上に保つ。 新設</p>	<b>B</b>

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
各学年児童の実態にあわせて基本的な計算練習の反復ができるよう教材づくりを行ったり、児童が取り組みやすいデジタル教材に取り組みせたりすることにより、全学年児童の計算力向上がみられた。算数科「数と計算」の領域での単元テストの平均は低学年では82パーセント、高学年では、70パーセントを保つことができた。	
次年度への改善点	
確実な成果がみられたため、計算の反復練習やデジタルドリルへの取り組みを継続する。	
<b>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の向上】(学力向上「中学校」)</b> 中学3年間を見通した英語教育を推進し、「書くこと」「読むこと」「聞くこと」「話すこと」の技能を高める取り組みを行う。	<b>B</b>
<b>指標 43.1%</b> 大阪市英語力調査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学3年生の割合(4技能)を40%以上にする。 <div style="text-align: right;">前年：中学校 38.8%</div>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
今年度実施の大阪市英語能力検査におけるCEFR A1レベル相当以上の英語力を有する中学生の割合は、43.1%と目標の40%以上を達成した。4技能別に大阪市平均と比べると「書くこと」が約30ポイントの差があった。残りの3技能は大阪市平均に比べ10ポイント程度の差であったため、「書くこと」に課題があることがわかった。	
次年度への改善点	
次年度は、4技能のうち「書くこと」を意識した小テストなどを行う。残りの3技能についても、今年度同様に「聞くこと」「話すこと」の技能については、C・N・E・Tを活用した授業を取り入れ、「読むこと」の技能については、生徒が興味をもちやすい教材を取り入れるなど工夫を行う。	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	
<b>取組内容⑤【5 健やかな体の育成】(健康教育「小学校」)</b> 体力をつけるため、児童の主体性を高めながら持久力を伸ばす活動を実施する。	<b>A</b>
<b>指標 65.5%</b> 年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を50%以上にする。 <div style="text-align: right;">前年 小学校：60.5%</div>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
各学期に一度「Go to 外遊び週間」を計画し順調に実施できている。また、3学期には運動委員会を中心に2時間目の休み時間を利用して持久走を実施できた。年度末校内調査「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対し「好き」と回答する児童が65%と昨年度より上昇し、取り組みの成果がでていいると考えられる。	
次年度への改善点	
持久走や「Go to 外遊び週間」の取り組みを日常に結び付ける工夫が必要である。教室での声かけや家庭とも連携し、継続できる体力づくりを進める。	

<p><b>取組内容⑥【5 健やかな体の育成】(健康教育「中学校」)</b>          運動やスポーツに対する興味を持たせ、体力の向上が図れるように、運動場・体育館の開放を計画的に実施する。</p>	
<p><b>指標 48.0%</b>          年度末の校内調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合を50%以上にする。          前年 中学校：54%</p>	<b>C</b>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>昼休みに安全に活動できるように大グラウンドに2学年、体育館に1学年配当し、ボールの貸し出しを行ない、運動に親しみを持たせたるよう計画、実施することができた。しかし、年度末の校内調査では「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する生徒の割合は48%となり、指標を上回ることはできなかった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>運動場、体育館の開放を継続する。体育館に比べてグラウンドで活動をする生徒が少ないので、グラウンドでの活動が増えるようなはたらきかけを行う。</p>	

日本橋小中一貫校 大阪市立浪速小学校 大阪市立日本橋中学校  
令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</b></p> <p>&lt;教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進&gt;</p> <p>○授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]</p> <p>1 月末現在 小 23.2% (30 日間)、中 21.5% (31 日間) 前年度: 13 日間</p> <p>&lt;生涯学習の支援&gt;</p> <p>○年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童生徒の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>小 74.0%、中 63.0% 前年度: 小 95.0%・中 61.0%</p> <p>&lt;人材の確保・育成としなやかな組織づくり&gt;</p> <p>○年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を、90%以上にする。</p> <p>2 月末現在 90.8% 前年度: 89.4%</p>	<b>B</b>

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【6 教育DX (デジタルトランスフォーメーション) の推進】(学力向上)</b></p> <p>学習端末を利用する環境を整え、心の天気やデジタルドリル (Navima)、小学校の学習支援ツール (SkyMenu)、デジタル教科書の活用や、Teams を活用してのオンライン全校朝会や集会、Forms を活用した小テストやアンケートなど端末を利用できる機会を増やす。</p> <p>指標 1 月末現在 小 23.2% (30 日間)、中 21.5% (31 日間)</p> <p>授業日において、児童生徒の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 25%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く]</p> <p>前年: 13 日</p>	<b>C</b>
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>12 月までの学習者用端末の活用状況 (生徒児童の 8 割以上が活用した日数) は、小学校が 30 日 (23.6%)、中学校が 28 日 (21.7%) であったため、目標である 25%以上を達成することができなかった。しかし、昨年度の活用実績より小学校・中学校とも 10~30%活用率が上昇していることから、安定的に使う習慣はできてきている。今年度、「心の天気」の重要性や Forms や Teams の使い方研修を行ったことも、使用率アップにつながったと考えられる。</p>	
次年度への改善点	
<p>学習者用端末の活用研修を行うとともに、デジタルドリル「navima」などの活用を呼びかける。また、会議や情報の共有に Teams や Google classroom など用いることで、有用性を教職員に伝え、授業などで活用しやすくしていく。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容②【8 生涯学習の支援】(教務)</b> 読み聞かせや朝の読書、絵本の広場等の活動を通して読書についての意識を向上させる。</p> <hr/> <p><b>指標 小 74.0%、中 63.0%</b> 小学校：年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。 中学校：年度末の校内調査で「本を読むのが好きですか」という項目に肯定的に回答する児童生徒の割合を前年度より向上させる。 前年：小学校 95%・中学校 61%</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>小学校は毎週火曜日と金曜日の朝の読書や、月に一度実施している朝の読み聞かせを昨年度から継続して取り組んできた。週に1回の学習の時間に図書室を利用して、児童が図書室を利用しやすいようにしてきている。また、昼休みには図書館開放を行い、より多くの児童が本に興味をもてるようにしてきた。2学期から、図書室の模様替えを行い、2学期の初めの8・9月は多くの児童が利用していた。2学期には、小学校ではおはなし会、絵の本交流会も実施され、児童や生徒はさらに読書に親しむ機会をもつことができた。</p> <p>中学校でも、読書の時間に学級文庫を利用したり、家から小説を持ってきたりして読書に親しむ環境を整えている。</p>	
次年度への改善点	
<p>朝の読書や読み聞かせの日を継続し、読書に親しめる機会とする。また、調べ学習でも図書室や図書館から借りた本を活用するなど読書機会を増やしていく。</p> <p>中学校では、目標の数値に2%上回る結果となった。次年度も読書機会をすぐに設けることができるようにしていきたい。</p> <p>小学校は目標の数値に対して16%足りない結果になった。「あまり思わない」という回答が前年度に比べて特になくなっており、読書に対しての意識が薄くなってしまったのではないかと考えられる。本年度より、端末や百マス計算などを均衡して取り組んでいるので、それらの結果から読書以外で児童が集中して取り組むことができる活動が増えているのではないかと考えられる。次年度はさらに読書習慣を意識するために担任からの呼びかけや委員会活動と連携して取り組んでいきたい。</p>	
<p><b>取組内容③【8 生涯学習の支援】(教務)</b> 昼休みや放課後の図書室開放や、学習時間での図書室利用を増やして読書についての意識を向上させる。</p> <hr/> <p><b>指標 1月末現在 小 15,040冊、中 849冊</b> 図書室の利用、本の貸し出し冊数を前年度より向上させる。 前年度：小 16,204冊・中 432冊</p>	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
<p>1月23日までの貸し出し冊数を調べると小学校は15040冊、中学校は849冊だった。小学校では、11月の読書週間や12月の絵の本交流会の期間に貸し出し冊数を増やしたことで、下半期の貸し出し冊数を例年より向上することができた。また、貸し出し各月ごとの冊数を調べると、1か月に平均1300冊、多い月では2013冊の貸し出しがあった。この結果は昨年度の冊数より向上しており、学校図書館を利用し、本を借りた児童が多かったことがわかる。</p>	

<p>中学校では、月に約 80 冊借りられていた。給食時には、図書館開放のお知らせをして「図書館の利用を促すようにしていた。また、夏休みの課題で図書室を利用する機会を設けたり、各教科の先生も図書室を活用したりして学習をすすめ、生徒が本を借りるきっかけになった。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>次年度も、年度初めから利用学年を2学年に増やした状態で5月から文化委員会で図書館開放を始め、年度始めから図書室を利用できるようにしていく。</p> <p>また、読書強化週間や長期休業の際には本の貸し出し冊数を増やして児童が本をたくさん読める機会を増やしていきたい。</p>	
<p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p>	<p>進捗状況</p>
<p><b>取組内容④【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】(管理職)</b>          教職員の働き方改革に関する目標を設定し、夏期と年末年始に学校閉庁日を設定する。</p>	<p><b>A</b></p>
<p>指標 <b>90.8%</b>          年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。  <span style="float: right;">前年度：89.4%</span></p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>年次有給休暇を10日以上取得した教職員の割合は、2月24日現在で、90.8%であった。前年度よりも向上し、目標にも達している。残りの日数で、達成できていない教職員の年次有給休暇取得に向けて勧奨していく。</p>	
<p>次年度への改善点</p>	
<p>夏期に5日間と年末年始3日間、学校閉庁日を設定する。</p>	